

令和4年度 府立西城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
◎「部活動の盛んな進学校」として、高いレベルでの「文武両立を実践できる生徒」を育成する。 ◎「当たり前のことが当たり前でできる」を基本とする生徒指導を通じて、「規範意識の高い生徒」を育成する。 ◎学校生活のあらゆる場面で、自己の目標に粘り強く向き合う姿勢を養うことで、「忍耐と努力を自らに課せる、自律した生徒」を育成する。 ◎持続可能な社会に向けて、地域と結びついた安心安全な学校を築き、「自他共に危機管理意識の高い生徒」を育成する。	①コロナ禍においても学びを止めることなく、教育活動の充実と進路実現に繋げる取り組みを継続した。生徒が主体的に進路に向き合うための面談や相談、進路情報の提供に努めるとともに、自学自習できる環境整備を推進した。今後も継続して、家庭学習習慣の確立や多角的な視点の学びについての取組が課題である。グローバルネットワーク京都事業は、SDGsを視野に入れ、教科横断的な取組を継続している。今後も実践可能な取組を模索し、準備段階も含め諸活動を有機的に結びつける工夫が課題である。 ②職朝や情報共有として、また保護者へのお知らせ連絡や出席停止生徒への学習課題の配信など、多岐にわたってClassiの活用を促進した。また、教員用タブレットを用いたICT研修を定期的実施し、新入生のタブレット活用や授業での効果的実践手法についての学びを深めた。今後もWebでの他校との交流や電子黒板の有効活用、オンライン授業への対応やオンデマンドでの課題配信など、ハード、ソフト両面でICT環境の充実・推進を目指す。 ③3年生の進路実現においては、最後まで努力した生徒が成果をあげたケースが顕著に見られることから、今後も個に応じた指導方針を共有・実践し、生徒が粘り強く最後まで学習に取り組めるような指導の工夫と進路情報の発信など個に応じた細やかな取り組みを進めたい。 ④制服のリニューアルや校則の見直し、新教育課程の編成など、新たな西城陽高校の魅力を積極的に発信した。本校で学びたいという中学生の進路希望は一定数あり、前期選抜受験者は増加したが、直前での私学専願合格による辞退者や前期選抜が不調の場合は併願私学へ進学を決定する生徒が年々多くなっている。2月中に高校受験を終えたいと考えている受験生に、中期選抜においても再度志願してもらうためには、志願者減の原因を中学3年生の減少や受験制度に帰すことなく、広報活動の工夫や地道な中学校訪問によって、引き続き本校の魅力の発信に努める。 ⑤生徒の登下校時の安全確保のための携帯電話については、概ね節度のある使用ができています。しかしながら僅かではあるが歩きスマホや授業中の着信等指導が必要なケースがある。また、自転車の交通事故件数や通学路での苦情が数件あることから、引き続き交通マナーを含めた指導を継続する必要がある。自転車置き場に防犯カメラを設置、体育館の照明のLED交換、3，4階校舎の窓枠に手摺りの設置など安心・安全な学校環境の整備を進めた。引き続き、日頃から危険箇所の点検・改善に努め、生徒の危機管理意識を育む取組を進めたい。 ⑥校内外の安全や環境美化については、本校が目指す安全で美しく爽やかな学習環境を維持することができてはいるが、引き続き校内の安全点検やゴミの分別指導を徹底する。 ⑦部活動は今年度もコロナ禍によって様々な活動制限があり、思うように活動することや大会等で実績を残すことが難しかった。そんな厳しい状況の中でも、陸上競技、男子ソフトテニスが2年振りに開催された全国インターハイに出場、文化系においても写真部が全国総合文化祭に参加した。また、初出場の女子ソフトテニスをはじめ男女バレーボール、水泳が近畿大会に出場し、合唱部が関西合唱コンクールで金賞を受賞した。今後も部活動全体の活性化を図っていく一方、活動が過熱しないように、休養日を週一回以上あるいは競技・種目特性に応じて定期的に設定して、学習と部活動を両立できる時間の確保を図り、計画的で効率的・効果的な活動としていく。 ⑧教職員の働き方改革については、月間出退勤時刻記録を個々に提示し意識改革を促している。職場の雰囲気が和やかで快適な環境になるよう、ハラスメント防止やコンプライアンス遵守の研修、職員間での良好なコミュニケーション形成、定期的な面談の実施など継続した取り組みを充実していく。また、個人の健康管理の一環として、ストレスチェックの意義を広く教職員に伝えたことで、回答率の向上が見られた。	①全学年の授業において、タブレット端末を有効活用し、充実したICT教育の環境整備を進める。新学習指導要領に準拠した「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業改善を全教職員で取り組むとともに、観点別評価の適切な運用に注力する。また、早期から分野別の正確な進路情報の発信を心がけ、進路目標の早期設定など、より充実した進路指導を行い、個々の生徒の学習意欲を高める。 ②部活動ごとの目標や競技、種目特性を考慮した休養日を設定するなど、適切な部活動の実施をととして生徒の自己管理能力を育成しながら、高いレベルでの「学習と部活動の両立」を支援する。 ③新制服導入や新教育課程による個々最適化した学びのスタイルへの改革、校則の見直しなど、本校の伝統と新たな方向性について、広く正確に情報提供し、中学生が目指したい、保護者が通わせたいと思える魅力ある学校づくりを行う。 ④防災・減災や交通安全、持続可能な社会の構築等に目を向け、生徒個々の危機管理意識を育み、地域と連携して安心・安全な学校を築くことを目指した学習や諸活動の機会を設ける。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
組織・運営	新学習指導要領に対応した教育課程の実施	◆「社会に開かれた教育課程」を踏まえて、外部機関や家庭・地域との連携及び協働を深めながら教育課程を実施する。また、総合的な探究の時間においては課題発見・解決等の能力を養うために内容を一層充実させる。	B	B	B	令和4年度入学生から変更した教育課程について着実に進めることができた。 感染拡大防止の観点を踏まえて行事の内容を調整しながらも計画的に行うことができた。 本校での高校生活を肯定的に捉える生徒の割合が増加した。
	学習と部活動の両立に向けた取組の推進	◆部活動ごとの活動目標と活動時間のバランスに留意し、学習と部活動の両立を目指した取組を学校全体として進める。	B	B		
	地域と連携し、地域から信頼され愛される学校づくりの推進	◆学校生活評価アンケート等を通して学校の課題や生徒の実態を把握し学校改善に生かす。生徒による地域行事への積極的参加、学校行事の地域への公開等により本校に対する地域の理解と信頼を高める。防災・減災や交通安全、持続可能な社会の構築等を主題として地域と連携して安心・安全な学校を築く取組を推進する。	B	A		
学習指導	学習習慣の確立と主体的な学習態度の育成	◆各教科の連携、家庭との連携、外部人材との協働など、生徒の学習意欲を高める取組を組織的に推進する。	B	B	B	ICT機器の利活用を推進し、教育活動全般においてその使用を定着させることができた。 教育課程の点検・改善を行い「個別最適な学び」について検証を進める。
		◆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。研究授業を計画的に行い意見交流を通じて課題を共有し組織的に改善を図る。	B			
		◆「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて授業におけるICT機器の利活用を進める。	A			
生徒指導	基本的生活習慣の確立	◆基本的生活習慣の確立に向けて、生徒が主体的に校則やマナーを守り、規範意識を高めるように働きかける。携帯電話等の取扱いについては守るべきルールを正確に伝え丁寧な指導を行う。	A	B	B	日々の指導を通じて落ち着いた学習環境を確保することができた。引き続き規範意識・人権意識の確立に向けた取組を推進する。
	道徳心の育成と規範意識・人権意識の確立	◆学校生活全般を通じて周囲への心遣いや、他者を尊重する精神を培う。時間を守る、身だしなみを整える、笑顔でさわやかな挨拶ができるといったことを大切に指導を行う。	B	B		
進路指導	生徒一人一人のキャリア発達の支援とキャリア形成のための指導の充実	◆自らの進路目標を持たせ、働くことの意義、望ましい職業観や勤労観を身に付けさせる「キャリア教育」を充実させ、進路を主体的に切り開く能力や態度を育成する。	B	B	B	生徒の主体的な進路実現に向けた取組を進めることができた。 進路希望の多様化に応じた進路指導の在り方について検討を進める。
	生徒が在り方や生き方を考え、進路選択の意欲を高める指導の充実	◆人間としての在り方や生き方に係る指導を基盤にして、生徒が主体的に学習できる環境を提供し、最後まで取り組む学習態度を育成する。また、学年部と連携し、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路選択に係る指導を行う。	B	B		

広報活動	本校の魅力についての積極的な発信	◆ホームページを活用して日々の教育活動について情報発信を行うとともに学校公開・説明会における内容・資料を充実させ、本校の特色や魅力、「学びのスタイル」を中学生・保護者に伝える。	B	B	A	中学生とその保護者へ本校の特色を適切に伝えることができた。
健康・環境美化教育	健康・安全上の自己管理の啓発	◆食や性についての正しい知識を身に付けさせ、適切な意思決定・行動選択ができるようにするなど生徒自身が健康の維持増進や安全について自己管理できるよう促す。	B	B	B	生徒の状況を教職員間で共有し生徒の支援に取り組むことができた。 日々の清掃活動を通じて良好な学習環境を保つことができた。 新型コロナウイルス感染症に対する「新しい生活様式」について校内で取組を推進し、家庭の協力も得て感染症への対応を適切に進めることができた。
	特別な支援を必要とする生徒への組織的対応の推進	◆日常の生徒観察を重視し、「気になる生徒」の情報を学年部・保健部及び教科担当者で共有し、教育相談会議との連携を図りつつ、生徒の変化に対応して早期に支援する。	B	B		
	校内美化意識の確立と校内美化の維持	◆日々の清掃活動や月例大掃除とともに、ゴミの処理の指導を通じて、美化意識・公共心を養い、良好な学習環境を自分たちで作出す意識を育む。	B	A		
	感染症についての理解と予防・感染拡大防止に対する意識の向上	◆「新しい生活様式」についての指導を継続して行い、感染症から身を守るための行動を定着させる。生徒の状況を把握し、感染拡大防止に向けた取組を適切に行う。	B	B		
図書館利用	読書活動の推進	◆ICT機器の利活用を含め、授業や特別活動を通じて、読書活動を推進する。蔵書のデータベース化・公共図書館との連携を進め、生徒の図書館利用促進、図書委員会活動の活性化を図る。	B	B	B	図書館活動を計画的に行い、図書館の活性化を進めることができた。
教育環境の整備	学校施設・設備等の充実	◆教職員が十分に連携を取り、各種事業の取組において効果的な予算執行を行い、質の高い教育環境づくりを行う。	A	B	B	関係分掌と連携した予算執行を行い校内の環境整備を進めることができた。 各種支援制度についても速やかに案内することができた。
	就・修学支援の充実	◆学校ホームページ、グループウェアも活用し、各種支援制度について、生徒・保護者等に対する案内を行う。授業料や諸費等の徴収事務および各種奨学金事務を円滑に実施する。	B	B		

(評価の基準 A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった)

学校関係者 評価委員会 による評価	・学校における学習環境の確保については概ね良好な状態が見られ、高校生活における規範意識の醸成や学習活動の維持・向上に関してよい影響を与えているものと考えられる。 ・進路指導に関する要望については一定のものがあることから、生徒に対する学習指導や生徒・保護者等に対する情報提供について一層の充実が必要となる。 ・校則の変更については時代の変化に対応して着実に進めることができたと考えられる。
次年度に 向けた改善の 方向性	・学習指導要領に示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。 ・授業改善に当たっては、ICTを活用することによる教育効果を考えながら、生徒の主体的に学習に取り組む態度を育成し、思考力・判断力・表現力を高める指導について充実を図る。 ・「ウイズコロナ」を踏まえた学習活動、学校行事、部活動等についてその取組を一層充実させ、本校での高校生活を通じて得られる体験機会の創出に取り組む。